

日本看護歴史學會 會報

日本看護
歴史学会
第58号
2012年7月1日

日本看護歴史学会第26回学術集会在日本赤十字看護大学で開催されるにあたって

日本赤十字看護大学学長 高田 早苗



日本看護歴史学会第26回学術集会在日本赤十字看護大学で開催されること、お祝いと感謝を申し上げ、盛会をお祈りいたします。

第26回のメインテーマは「災害の教訓から改革へ」とお聞きし、まさに川嶋学会長のもと本学で開催される意義はここに集約されていると感じました。1890年、赤十字病院で看護師の養成教育が開始され、早くもその翌年発生した濃尾地震の際に一期生が災害救護にあたっている姿が写真に残されています。つまり、本学看護教育の歴史は災害看護で始まり、重なりあって進んできたと言うことができます。

そして、写真なり文書なりの資料が保存され、整理され意味づけられてはじめて後世の私たちが容易に足跡をたどることが改めて確認されます。もちろんこのことは本学会員の皆様には釈迦に説法ということは百も承知なのですが、＜歴史をひもとく＞、＜歴史を学問とする＞という言葉にロマンと羨望を感じる歴史素人の私にとっては、新たな発見でもあったのでした。

昨年東日本大震災発災後、赤十字看護大学として、他の赤十字大学や本社看護部と協力して石巻や陸前高田などの被災地支援に赴いた教員・学生から、失われたものの大きさを肌で感じ、被災された人々の笑顔に勇気をもらったといった報告を数多く受けました。私自身も陸前高田市に2度参りました。鉄筋コンクリートの建物だけが残り、破れかけたカーテンやブラインドがはためく、無残としか言いようのない光景に自然と涙がでてきました。

そして年度末の短い間でしたが、厚生労働省からの要請を受けて、いわき市に避難している福島原発関連避難者への支援に本社看護部と共同で取り組みました。原発事故により、何ヶ所もの避難所を転々として、なお仮の住処であるいわき市の仮設住宅や借り上げ住宅に身を寄せている方々が2万人を超えているのです。双葉8町村、南相馬市の方々です。町村役場機能は別の都市におかれ、それだけでなくとも疲弊していることもあり、保健サービスも受けにくい状況にあります。仮設はまだ近隣の関わりがあるのですが、借り上げ住宅に住む人は孤立しがちです。学内での支援報告会で、「同じ福島県内でも原発事故で避難してきたことを知られると、避けられる、差別される」といった避難住民の声が紹介されました。帰りたいが帰れない、故郷を失い生活基盤を根こそぎ奪われ、その上にこのような差別を受ける苦しみを私たちはしっかり受け止め見つけなければならないと強く感じています。

「原発、クリーンで安全なエネルギー」テレビコマーシャルで繰り返し流されていました。私たちは安全神話を信じ、便利で快適な生活が当たり前だと思い、これから先も続くことを、愚かにも願ひ信じてきました。しかし、仮に事故がなくとも核廃棄物の問題は既に存在していたのです。不都合な真実には目をそむけてきたのです。そして今、再稼働へと舵が切れようとしています。「福島」から何を学ぶべきか。人々の健康と安寧に関心を寄せる看護職として、一人の地球人として、歴史的視点をもって意見表明します。広島・長崎と同じく、「繰り返してはならない」「脱原発以外に立ちゆく道はない」と。

第26回学術集会—伝えよう、今を！

第26回学術集会会長 川嶋みどり



大震災後の復旧・復興への遅々とした歩み、原発事故以来の多くの人々の解消されない不安をはじめ、目下進行中の気になる事象を見聞きするにつけても、今を生きしてい

る者がどのように事実をとらえ行動するかが、この国の将来を決めるという思いを強くします。歴史は人が創り、その正否は歴史が判断を下すという認識を改めて深めています。

それ故に、本学術集会のメインテーマ『災害の教訓から改革へ—私たちは何を伝えるべきか—』の主旨に立ち返り、“災害”と“改革”というキーワードの今日的な重みと、“伝える”ことの歴史的な意味を受け止め、企画委員一同、全力を挙げて学術集会の開催に向けての準備を行っております。

先ず第1日目の公開シンポジウム(渋谷区後援)は、上記の学会テーマそのものを、3人の演者のみなさまの生々しい体験を通して縦横に語って頂けると思います。きっと、かけがえのない教訓を聴衆のみなさまに伝えて頂けるこ

とでしょう。

特別講演の黒井千次先生は作家で日本芸術院会員であり、この春まで芥川賞の選考委員でもありました。太平洋戦争下の本土大空襲で廃墟と化した国土と昨年の大震災を重ねて「人が生きて行くことへの想像力」についてお話して頂きます。

会長の私は、被災・事故後に当事者たちが避けられない、喪失や悲しみの諸相のプロセスを共に歩もうとするなら、災害を受けなかった者もまたどのようにすべきかをお話してみたいと思っております。

また、本学会では定番となりましたテーマセッションは、プログラムでご紹介する通り、2日間にわたって魅力あるテーマがひしめいております。口演、示説による看護歴史研究も多彩に展開されその成果発表も楽しみです。

8月下旬、真夏の東京での開催ですが、会員のみなさまは勿論、会員外の方にもどうぞお声をかけて多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。とりわけ、歴史への関心が高まりつつある若い学生たちは、ワンコインで参加できますことをお知らせ下さいませ。

2012年8月26日(日)、27日(月)の2日間、日本赤十字看護大学(東京都渋谷区広尾)において、「日本看護歴史学会第26回学術集会」を開催いたします。ふるってご参加ください(プログラムは今後変更の可能性がございます。最新の情報についてはホームページでご確認ください)。

学術集会スケジュール

8月26日(日) 1日目

9:30

開会

9:35~10:35

【会長講演】 第1会場(広尾ホール)

被災と未災のあいだをつなぐ感性

川嶋みどり(日本赤十字看護大学)

10:40~12:00

【特別講演】 第1会場

人が生きて行くことへの想像力—戦災、大震災を生きて—

黒井 千次(作家)

12:00~13:00

【休憩】(総会12:10~12:40)

13:10~14:50

【一般公開シンポジウム】(渋谷区後援一般入場無料) 第1会場
災害の教訓から改革へ—私たちは何を伝えるべきか—

- シンポジスト 金 愛子(石巻赤十字病院)
雅楽川 聡(公立阿伎留医療センター)
齋藤 裕基(株式会社ウェルファア
くあゆみ訪問看護ステーション)
- 15:00~15:30 【一般公開プログラム】第1会場
コーラス コール・シャマイクル
- 15:40~17:00 【一般演題 口演 第1群】(4題) 第1会場
【一般演題 示説 第1群】(4題) 第4会場
【テーマセッションⅠ】第2会場
看護師の被災体験(その時看護師は何をしたか、何を考えたか)
川嶋みどり(日本赤十字看護大学)他
【テーマセッションⅡ】第3会場
昭和初期の地方における精神障害者への看護の歴史
日下 修一(獨協医科大学大学院看護学研究所)
- 17:10~18:30 【一般演題 口演 第2群】(4題) 第1会場
【テーマセッションⅢ】第3会場
3.11の東京 大学病院では何が起こっていたのか
—高層階の病院師長の体験を「歴史」として語り継ぐ—
鈴木 紀子(看護史研究会)
【テーマセッションⅣ】第4会場
精神科病院で働く看護師たちが体験した3・11
—南浜中央病院の4日間—
鷹野 朋実(日本赤十字看護大学)
【日本看護歴史学会研究推進委員会企画ワークショップⅠ】第2会場
看護歴史研究の基礎
滝内 隆子(岐阜大学医学部看護学科)
丸山マサ美(九州大学医学研究院)
【学術集会企画ワークショップⅡ】受付集合
看護の記憶を保存する
—日本赤十字看護大学におけるアーカイブの取組み
川原由佳里・吉川 龍子・鷹野 朋実・山崎 裕二・樋口 佳栄・
高橋 朋子・殿城 友紀・川嶋みどり(日本赤十字看護大学看護歴史研究室)
- 18:40~ 懇親会

8月27日(月) 2日目

- 9:00~10:00 【一般演題 示説 第2群】(4題) 第4会場
10:15~11:00 【一般演題 示説 第3群】(3題) 〃
11:15~12:00 【一般演題 示説 第4群】(3題) 〃
9:00~10:20 【テーマセッションⅤ】第2会場
フローレンスナイチンゲールと陸軍の改革—経験したことから学習せよ—
佐々木秀美(広島文化学園大学)
【日本看護歴史学会特別委員会企画テーマセッション】第5会場
災害医療・看護の歴史研究と課題(仮)
特別委員会 藤村 龍子(四日市看護医療大学大学院)
- 10:30~11:50 【テーマセッションⅥ】第2会場
ナイチンゲール『看護覚え書』の「神の法則」の意味
平尾真知子他
【日本看護歴史学会理事会企画セッション】第3・5会場
2011年度の看護界の出来事
Ⅰ. 特定能力認証制度
Ⅱ. 三重県立看護大学看護博物館
- 12:00 閉会

第27回（平成25年度）学術集会開催に向けて

学術集会会長 岡山 寧子

日本看護歴史学会第27回学術集会は、2013年8月末、暑い京都での開催となります。日程は只今調整中で、会場は京都府立医科大学広小路キャンパスを予定しています。京都での開催は6回目となります。その最初は、京都市立看護短期大学で開催された記念すべき第1回大会でした。当時の熱気が今も深く印象に残っています。あれから四半世紀、日本の看護は多くの課題に挑戦しながら、社会にどのような貢献ができるのかを模索しているように思います。それ

に沿って看護教育も変化し続けていること、そしてこの変化を史実として蓄積することの重要性を実感しています。

学術集会の最終的なテーマはあれこれ検討しているところですが、看護教育の足跡に焦点をあて、先人達の智慧を検証しながら、これからの看護教育について熱く語り合えればと考えております。皆様の多数のご参加・ご発表をお待ちしています。

新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 平成24年1月～5月入会

柳澤まゆみ (11027)	上田代恵子 (12001)
村杉登志子 (12002)	落合のり子 (12003)
玉井 和子 (12004)	山口 茂子 (12005)
長谷川美津子 (12006)	八木美智子 (12007)
青木 久恵 (12008)	窪田 恵子 (12009)
庄山 茂子 (12010)	滝本 和子 (12011)
廣瀬 清人 (12012)	坂口 千鶴 (12013)
伊藤恵里子 (12014)	小野寺綾子 (12015)
内田奈津美 (12016)	高橋 智子 (12017)
前田 尚美 (10218)	須藤 桃代 (12019)
宮本 涼子 (12020)	月澤美代子 (12021)
高橋 弘子 (12022)	小川 典子 (12023)
大竹 沙織 (12024)	照川 眞木 (12025)
小倉 之子 (12026)	大西 章恵 (12027)
中村 郷子 (12028)	梶橋 明子 (12029)
安藤 満代 (12030)	

お知らせ

■事務局から

平成23年度会員動向(平成24年3月31日現在)

1. 会員数(特別会員1名を含む)	327名
2. 入会者数	27名
3. 退会者数	38名

会費納入のお願い

平成24年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。事務局からお送りした払込取扱票を紛失された場合は、郵便局にある払込取扱票に口座番号「01010-1-52185」、金額「6000」(ただし、2年分未納の場合は12000)、加入者名「日本看護歴史学会」、通信欄に「会員番号」、ご依頼人の欄に「郵便番号・住所・氏名・電話番号」をご記入いただき、窓口かATMで払い込みください。3年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロード

できます)を事務局にご提出ください。

学会誌投稿論文の送り先

投稿予定の会員は、事務局ではなく、〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部看護学科 田中幸子(日本看護歴史学会誌編集委員会)宛にお送りください。

学会誌バックナンバーの販売

事務局が保管している学会誌と学術集会講演集のバックナンバーを会員・一般の方に販売します。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

編集後記

会員の皆様、学会会報をお届けいたします。今回は第26回学術集会の情報を中心にプログラム、大会長挨拶に加え、日本赤十字看護大学学長の学会への励ましの言葉を載せています。日本の現状を見渡した時に、歴史に残る事柄が多く、看護界にとりましても何をやるべきか・何ができるかが問われていると思います。その意味において、今年の学会のテーマはエポックになると考えます。今回の会報は定例会報とともに、学会参加への呼びかけも兼ねています。(会報担当：鷹野・小田)

日本看護歴史学会会報 第58号

企画・編集 小田 正枝(国際医療福祉大学)
鷹野 朋実(日本赤十字看護大学)

発行責任者 山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

印刷 刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学

山崎 裕二

TEL 03-3409-0613

e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里

TEL 03-3409-0185

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>